ありがたく着ていること、伝えて欲しい

11月中旬に呼びかけられた「あったか衣料を被災地へ贈ろう企画」では、5,548名の組合員さんから約6,330点のご協力がありました。ありがとうございました。

岩手県大槌町・陸前高田市の被災者の方へ11月22日から、お届けしています。

共同購入運営部の池田さん(左)

冬物衣料、本当に多くの方に喜ばれました。「住所がわかればお礼の手紙を書きたい」など言われる方もいました。「大阪の人たちがくれたのをありがたく着ていること伝えて欲しい」と写真撮影の依頼にもみなさん快く応えてくださいました。組合員さんの想い、しっかり伝わったと思います。

(11月24日大槌町、共同購入運営部の池田さん)

冬物衣料の配達をしました。支援を必要としている人とそこまでしなくてもという人の区分が様々で、支援の対象者が分かりにくいところもありました。現地責任者の方は「本当に困っている人に渡していきたい。我々地元の人間はある程度、把握できるのでその辺は任せて欲しい」と言われ、本当に困っている弱い人に確実に支援していくことの必要性を感じました。

(11月23日大槌町、都島支所の山根さん)

都島支所で都島区配送担当の山根さん(左)

パルコープで11月中旬に呼びかけた「クリスマス募金」へのご協力ありがとうございました。お届けの様子は今後のぱるタイムでお伝えしていきます

被災された中でも 自分たちの活動を

5月からのボランティア活動は11月下旬までで合計26陣(のべ303名)になりました。活動している職員の毎日の感想レポートを抜粋でご紹介します。

〈第2期第10陣〉10月22日～28日　支所職員など11名(内よどがわ生協の方3名・ならコープの方1名)

藤原さん(北枚方支所で枚方市の配送担当)、岡本さん(南寝屋川支所で大東市の配送担当)、
高津さん(商品検査室)、山田さん(システム経理部)、今岡さん(店舗本部)、角谷さん(パル企画)、
井上さん(よどがわ生協)、植田さん(よどがわ生協)、高橋さん(よどがわ生協)、大西さん(ならコープ)、加藤さん

後列左から2番目が加藤さん、前列左端は山田さん(システム経理部)

地元のお母さんがたと、沖縄・神戸からのボランティアの皆さんと一緒に大槌ローソン横の花壇を耕しました。

石がごろごろ、粘土質の土地を一生懸命耕し、苗を植え付け、色とりどりの花壇に！チューリップの球根も植えたので来年の春が楽しみです。その後の花壇が気になるので、また訪れたいです。

(10月25日　生野個配センターの加藤さん)

〈第2期第11陣〉10月29日～11月4日　支所職員など17名(内よどがわ生協の方2名・ならコープの方3名)

北田さん(生野個配センター)、川井さん(商品部)、武川さん(寝屋川支所)、西山さん(福祉事業部)、
岡野さん(平野支所)、奈波さん(西成支所)、中西さん(港支所)、永野さん(南寝屋川支所)、
中島さん(コールセンター)、橋本さん(12年度採用予定)、大江さん(システム経理部)、石田さん(よどがわ生協)、
高橋さん(よどがわ生協)、上床さん(ならコープ)、岡江さん(ならコープ)、田中さん(ならコープ)、佐味さん

いわて生協さんの組合員活動である、「秋のつどい」に参加させていただきました。「毎年開催していました。この地域では震災後初めて、2つの委員会合同の「つどい」だけどやっと開催できました」と、こ～ぷ委員さんが言われていました。仮設住宅の近くの会場で、約15名の組合員さんや友人の方が来られて、生協の商品で作った水団(すいとん)やお菓子などを食べながら、商品の話、くらしの話をしておられました。こ～ぷ委員さんたちの熱心な姿に、被災した中でもなんとか自分たちの活動をやっていこうという想いを感じて感動しました。

(11月2日、都島支所・佐味さん)

～ 岩手 被災地ボランティア 活動 ～

遠野通信 NO.7

被災者に寄り添い、絆をつなげる支援活動を

遠野まごころネット

被災地では被災して初めての年末・年始を迎えようとしています。また、まごころネットに集まるボランティアメンバーも厳冬期の活動に入りました。活動内容は、瓦礫撤去などの「ハード」から「ソフト」部門のお茶っ子・カフェ隊や足湯隊など「見守り・ケア活動」に重点が遷っています。同時に、瓦礫撤去の後は、菜種＆麦畑や春咲き球根の花壇と傍(かたわ)らに常設・薪ストーブ付きの「語らい場」へと衣替えしています。

まごころ物資班では、高齢者世帯をはじめとした就労所得がない世帯に絞り冬物衣料のお届けと、新たに灯油のお届け(いわて生協との連携事業)を年末から始める準備中です。また"こどもの笑顔がおとなに、地域にひろがる"ことを願って、クリスマスプレゼントのお届けの準備に入っています。

(NPO遠野まごころネットに常駐する事務局・林さんより)

パルコープ組合員さん→
いわて生協→岩手県の仮設住宅へ…

提供された台所用品がとても喜ばれました

6月末にパルコープの組合員のみなさんからご提供いただいた食器は、パルコープボランティア職員が仮設住宅にお届けした以外にも、いわて生活協同組合を通して被災された方へ提供されました。

いわて生協の職員やこ～ぷ委員さん(活動組合員さん)の手により7月から10月までに、のべ43カ所で開催された提供会で2,425名に食器をお届けして、喜んでいただけました。(いわて生協のホームページでも紹介されました)

検査してくれてるんや、やっぱり生協やわ

組合員活動のコーナー

組合員活動は「食」「平和」「環境」「くらし」の4つの柱にそって各地域で多彩なとりくみが行われています。その様子を紹介していきます。

11月17日 大阪西地域活動委員会
11名参加(子ども2名含む)

帰り際に検査が終了していて放射能検査器の中も見ました

男性は商品検査室の松谷さん

「へぇー！」「ええー、そうなん！」が飛び交った、枚方にあるパルコープの商品検査室の見学会。西区からバスで訪れて、物流センター・ながお店への見学・買い物も行いました。

残留放射能検査では、ゲルマニウム半導体検出器(行政でも最終確認に使うレベル)での検査を見て、「生協は販売者として、行政で検査対象の商品を再検査・確認した上でのお届けをめざします」の話を聞き、納得。

微生物検査では、「保存料を制限して商品供給している生協だからこそ、すぐに身体に危害が起こる微生物の検査に力を入れています」とのこと。

理化学検査(保存料・発色剤を溶出して確認)と卵の鮮度検査、農産物の残留農薬検査の見学も行いました。

見れて良かった・勉強になった・感動した見学会でした。

残留放射能検査の結果はホームページでご覧いただけます
http://www.palcoop.or.jp/radioactiv_lab/

参加者の感想

「生協に入って25年です。だんだん生協もスーパーと変わらなくなってきたような気がしていましたが、『検査をきちんとしてくれてるんや、やっぱり生協やわ』と思いました」(川松美代子さん)

「子どもがキュウリや人参を生でかじるのが好きなので、放射能のことが気になっていて見学したいと思っていました。再検査という意味で、行政レベルの正確な機械でダブルの検査が行われているのが分かって安心しました」(岩田美紀さん、光生(みつき)ちゃん・3歳)

「生協の裏側が見れて、すごさに驚きました。保存状態(温度)で卵も鮮度が変わることを知って、ためになりました」(小林美紀さん、大馳(だいち)君・1歳)